

登録コード	EKF06900	開講年度	2026					
授業科目	国語科授業分析演習						担当教員	徳井 厚子 他
英文授業名	Analysis method of Japanese language teaching						副担当	西 一夫
単位数	1	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・2時限		履修学年	1-2年
講義室				授業形態	演習	備考		
信大コンピテンシー	非該当							
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】					⇔	【授業の達成目標】	
	2 6 E A カリ, 2 5 E A カリ, 2 4 E A カリ							
	教育の専門職としての学識・技能					⇔	国語科教育の実践・授業記録の分析方法について理解し, 実践・授業の記録の作成および記録の分析ができる。	
	2 4 E A カリ							
	教育現場の諸課題の背景にある関係構造に気づく視点					⇔	国語科教育の実践・授業の記録の作成および記録の分析を通して国語科教育の諸課題の構造について気づくことができる	
(2)授業の概要	演習形式で, 国語科教育学の専門性を元に, 国語科教育の実践や授業の記録・分析方法について学ぶ。また, 各自の課題に対応した実践・授業記録を実際に分析・検討し, 授業作りにつなげていく。							
(3)授業計画	第 1 回: 国語科教育の実践・授業の記録および分析方法についての理論 【遠隔等】 第 2 回: 国語科教育の実践・授業の量的記録に関する記録・分析方法【遠隔等】 第 3 回: 量的データ分析の演習【遠隔等】 第 4 回: 事例の記録の量的分析と検討 第 5 回: 国語科教育の実践・授業の質的記録に関する記録・分析方法 第 6 回: 事例の記録の質的分析と検討 第 7 回: 実践・授業記録の分析に基づいた学習過程の改善・構想 (レポート提出) 授業アンケート実施 ※各回とも原則として複数の教員によるTTで指導をする (分担, 単独等は適宜対応)。							
(4)成績評価の方法	各回の発表内容 (40%), 質疑応答・議論の内容 (20%), およびレポート (40%) によって評価する。 ・評価割合は, 若干の調整をおこなうことがある。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可							
(5)履修上の注意	授業は, オンライン及び対面で行います。eAlpsを参照のこと。 「卓越している」(1)研究課題, (2)理論的枠組み, (3)授業内容と専門性, (4)研究の意義, のすべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表, 討議, およびレポート構成が実現できた上で, (1)から(4)のうち3つ以上について発展的な発表, 討議, およびレポートが実現できている。 「かなり上である」: 上記(1)から(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表, 討議, およびレポート構成が実現できた上で, (1)から(4)のうち2つについて発展的な発表, 討議, およびレポートが実現できている。 「やや上にある」: 上記(1)から(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表, 討議, およびレポート構成が実現できた上で, (1)から(4)のうちいずれか1つについて発展的な発表, 討議, およびレポートが実現できている。 「水準にある」: 上記(1)から(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表, 討議, およびレポート構成が実現できている。							
(6)質問,相談への対応および連絡先	オフィスアワー: 担当教員への質問・連絡方法は, 各自担当教員と相談して決定すること。 西一夫 nishika@shinshu-u.ac.jp 徳井厚子 tokuias@shinshu-u.ac.jp							
(7)成績評価の基準	「卓越している」: (1)研究課題, (2)理論的枠組み, (3)授業内容と専門性, (4)研究の意義, のすべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表, 討議, およびレポート構成が実現できた上で, (1)から(4)のうち3つ以上について発展的な発表, 討議, およびレポートが実現できている。 「かなり上である」: 上記(1)から(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表, 討議, およびレポート構成が実現できた上で, (1)から(4)のうち2つについて発展的な発表, 討議, およびレポートが実現できている。 「やや上にある」: 上記(1)から(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表, 討議, およびレポート構成が実現できた上で, (1)から(4)のうちいずれか1つについて発展的な発表, 討議, およびレポートが実現できている。 「水準にある」: 上記(1)から(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表, 討議, およびレポート構成が実現できている。							
(8)事前事後学習の内容について	事前学習) 質疑応答・討論のための資料を準備すること。また, 研究課題に関連した文献等を, 図書館等で検索・収集し, 研究課題の設定の仕方や研究方法論に着目して要約したり, 吟味したりすること。 【事後学習】 質疑応答・討議を通じて生まれた課題について, 事後に各自で調べて再検討すること。							
【教科書】	授業中に指示する							
【参考書】	なし							